

第14回

オーガニック講座

参加
無料

農薬や合成化学物質による 生態系やヒトへの影響

ー持続可能な農業における今後の課題ー

日時

令和6年10月5日(土)

13:30~15:00(開場 13:00)

会場

小山市役所 6階大会議室

申込

QRコードから申込又は事務局までご連絡
※定員150名、先着順です。

講師

木村ー黒田 純子 先生

〔環境脳神経科学情報センター副代表〕
〔医学博士〕



○講師略歴○

- 1977年 お茶の水女子大学大学院理学系生物学修士課程修了
- 1977年 東京都神経科学総合研究所、微生物学研究室研究職員
- 1984年 東京大学にて医学博士号取得
- 1997年 同研究所、脳構造研究部門を経て発生形態研究部門主任
- 2011年 同研究所の統合に伴い公益財団法人東京都医学総合研究所、脳発達・神経再生研究分野、研究員
- 2013年 同研究所、こどもの脳プロジェクト、研究員
- 2014年 「発達障害の原因と発症メカニズム」(河出書房新社)出版
- 2017年 研究所を退職、環境脳神経科学情報センター副代表
- 2018年 「地球を脅かす化学物質ー発達障害やアレルギー急増の原因」(鳴海社)出版

主催：小山市有機農業推進協議会

(事務局) 小山市役所農政課環境創造型農業推進係

☎：0285-22-9269 ☒：d-nosei@city.oyama.tochigi.jp

共催：小山っ子の未来を守る会

(担当) 川村、高橋

申込はこちら



第14回オーガニック講座講師コメント

人類は長い歴史のなかで安定した農作物の確保に苦勞し、病虫害や雑草を減らすために天然物で防除を行ってきた。1950年頃から、合成化学農薬が使われるようになり、効果はあったものの、大量に使用した後から、生態系や人への毒性が判明し、代替農薬を作るという歴史を繰り返してきた。

農薬は”薬“ではなく、何らかの生物を殺す殺生物剤（バイオサイド）で、基本的に毒性がある。地球上の生物は、細菌類から人間まで、多くの共通な生理活性物質を使って生きており、”害虫”、”雑草”、”病原菌“などだけに毒性をもつ農薬はありえない。

世界の動向は、化学農薬や化学肥料を減らし、持続可能な生態系を維持した有機農業に向かっている。無農薬・無肥料の自然農法や有機農業を進めることは、地球と子ども達の未来に繋がっている。また、プラスチックの過剰使用は農業においても、重大課題で、これからの対策が求められている。

私たち人間は、自然生態系のごく一部でしかなく、地球環境に生かされていることを忘れてはならない。持続可能で、地球生態系に寄り添った農業が求められているのではないかな。

オーガニック講座とは

小山市では、生物多様性に配慮した持続可能な地域農業の発展と、都市環境と田園環境の調和のとれた田園環境都市の実現に向け、人・いのちを大事にする有機農業を推進することを決意し、「オーガニックビレッジ」を宣言しています。

そこで、「小山市有機農業推進協議会」と「小山っ子の未来を守る会」では、小山市内外の生産者や消費者の皆様を対象に、有機農業や有機農産物等の理解の醸成を図ることを目的として、「オーガニック講座」を開催しています。

令和6年度「オーガニック講座」開催予定一覧

開催予定月日	予定講師等
令和6年8月10日（土）	杉山 修一 先生（弘前大学名誉教授）【開催済】
令和6年10月5日（土）	木村－黒田 純子 先生 〔環境脳神経科学情報センター副代表〕 〔医学博士〕
令和6年12月14日（土）	栗木 政明 先生（JAはくい経済部次長）
令和7年2月2日（日）	映画「夢みる給食」上映会

過去のオーガニック講座のアーカイブは、右のQRコードからご覧いただけます。（小山っ子の未来を守る会YouTubeチャンネル）

